

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女 a

男子 女子 回戦 準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名															
四天王寺	<u>22</u>	<table border="0"> <tr><td>12</td><td>—</td><td>14</td></tr> <tr><td>10</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	12	—	14	10	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<u>23</u>	名古屋経済大学市邨
12	—	14																	
10	—	9																	
—	—	—																	
—	—	—																	
—	—	—																	
		7mTC																	

昨日高松商業との激戦をものにした近畿の四天王寺と東海地区1位の名経大市邨との対戦。試合は両チーム左45度のロングシュートの打ち合いで幕を開け、その後も市邨は高い身長を活かして14番高木・18番伊藤のロング、四天王寺も15番西村のロング 17番橋本のカットインなどで両者譲らず、一進一退の展開が続き前半27分の時点で12-12の同点であったが、前半残り2分半、四天王寺に痛い退場が出て、有利な状況をうまくつけた市邨がこの間に2点を連取し14-12の二点差で前半を折り返した。

後半四天王寺は13番高木を投入して反撃にできるが、市邨も速攻で加点し点差はつまらず10分過ぎからは点が入らない時間帯もあり、じりじりした展開が続いたが、四天王寺は15分過ぎから速攻・サイドが決まりだし20分、20番川上のまわり込みのミドルでついに逆転し、ゲームのゆくえは終盤勝負となった。22-22でむかえた後半残り2分、市邨20番織田のポストシュートが決まり、これが決勝点となり、激戦を制した市邨がベスト4へとコマを進めた。

2016年 3月 27日

記載者氏名 潮海克郎

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女b

男子 女子 回戦 準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
明光学園	20	5	10	県立華陵
		15	13	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

女子準々決勝。九州ブロック覇者・明光学園（福岡）と中国ブロック覇者・華陵（山口）との一戦。

明光学園のスローオフで試合開始。開始5分間は互いに得点が決まらず、ほぼ互角の立ち上がりが続く

が、5分15秒に華陵が3番山本の鋭いシュートにより先制点を奪う。対する明光学園は8分30秒、7

番藤田が7mスローを決め反撃に出る。両チームとも鉄壁なディフェンスを崩しきれずに攻めあぐねる

攻防が続くが、華陵が粘り強く得点を重ね、徐々にペースを掴んでいく。19分59秒、明光学園はタイ

ムアウトを取り、流れを引きこもうと試みるが華陵はペースを崩さない。華陵は終盤にも得点を重ね、

5点のリードを保って前半を終える。後半、華陵は4番福本がサイドシュートを決め、またも先制する。

華陵はそこから3連続得点。ここで明光学園はタイムアウトを取り少しずつ調子を取り戻していく。中

盤、華陵はディフェンスの乱れから退場者が続く。このチャンスに明光学園はマンツーマンDFに切り

変えると流れを引き寄せ、怒涛の攻撃で凄まじい追い上げを見せる。対する華陵も必死で喰らいつく。

明光学園の追い上げは僅かに及ばず、前半でリードした華陵が逃げ切った。

2016年 3月 27日

記載者氏名 石田 聡